平成25年度第1回外部評価専門部会　会議録

日　時　　平成25年10月22日（火）13：00～14：25

場　所　　市役所新館３階会議室Ａ

議　題　　⑴事業概要及び内部評価内容の説明について
　　①元気な十和田市づくり市民活動支援事業
　　②集客力を高める食・農・自然観光の連携
　　⑵部会による対象事業の選定について

出席者　　髙井伸二部会長、升澤博也委員、小林博子委員、三國節夫委員
　　（欠席委員　立崎享一委員、國分隆子委員）

担当課　　まちづくり支援課：岡山課長、山本課長補佐、榊主査
　　観光推進課：佐藤課長、久保田課長補佐、高屋主査

事務局　　田上課長、沖澤課長補佐、工藤課長補佐、成田主任主査、鳥谷主任主査

会議内容

⑴事業概要及び内部評価内容の説明について

①「元気な十和田市づくり市民活動支援事業」について、まちづくり支援課から事業の概要等に関する説明があり、下記のとおり質疑応答が行われた。

質疑委員	質疑と応答
髙井部会長	○H24 事業で、北園小学校の創立 60 周年のグラウンド整備、本来はこの補助金の対象にならない事業ではないかと感じたところだが。 ◆PTA が自ら手を挙げ、自ら労務を提供してグラウンドを整備するというあり方から、この事業の対象であるととらえたところです。 ○北小 PTA への補助額は約 400 万円、業者に整備してもらった場合はどのくらいの価格差か。 ◆約４倍程度です。 ○当然、よい制度ではあるが、あえて裏読みすると、教育行政がやるべきものを市民にやってもらった、というイヤミを言われるおそれもある。 ◆ご指摘のとおりで、様々な考え方があります。とはいえ、この事業

	の目的は、あくまでも市民自らの申込みを前提として、市民の主体的な活動に対して行政が支援する、という考えに立っております。
升澤委員	○年々予算額が増加しているが、H26 の予算の予定は。 ◆まだ現時点では決まっていません。 ○多様な事業の中からどれかを選ぶというのは、たいへん困難なこと。豊ヶ岡町内会の件を例にとると、１件認める前例ができることで次々と（他の町内会も）手を挙げてくることが予測されるが、これを全部認めるとなるとすごい予算額になってしまうのでは。また、行政は、できるところには自分でやってもらい、自力ではできないところを補助すべきものではないか。 ◆その町内会は、集会所の中と外にそれぞれ課題があり、片方は町内会側でなんとか工面するが、もう片方は自力では難しいとのことでした。 ○事業選考の形というか変遷について聞きたい。どういった経緯で市民を 3 人入れることにしたか。これまでは内部の人 11 人でやってきたとのことだが、それではうまくできなかったということか。 ◆この事業においては、何をもって「元気」になるかの判断が難しいところですが、市としては、その判断に際しては市民の目線が大事である、と考えてきました。市民の方が納得してくれるなら、市も思い切ったチャレンジ（これまでなかった新しいものに補助金交付）をしていく、ということです。制度の立ち上げ時は市でも、いずれは市民が検討・判断していく方向性を作ろうと、当初から考えてきているところです。今はその過渡期にあります。 ○さっきの例ように、すでにやったことが前例になる場合は、困る場面が訪れる。どれもこれもが補助金適用とはならないように、ルール作り、線引きをしてほしい。（要望）
髙井部会長	○線引きについては、なかなか難しそう。ここに上がってくるものは、市民の自発的な意思で、いろんな分野のものがある。 ○この制度の仕組み上、積極的に手を挙げるグループとそれをしないグループとの間に格差ができることが想定される。 ○また、相手にいろいろ報告させる形というのは、補助金額の割には重すぎるのではないか。収支の決算だけはきっちり締めて、あとの中身はもっと柔らかくてもよいのではないか。まずは低いハードルでやらせてみて、それを行政がフォローアップしていく形にするのが、賢いやり方ではなかろうか。
三國委員	○申請から報告までの手順取りは、もっとゆるくできるほうが市民にとって好ましい、と考える。

小林副部会長	○この仕組みをよく知らない団体たちがあると思うので、各団体に対して、わかるように PR していただきたい。また、おじいさんおばあさんでも利用できるよう、中間報告会や成果報告会について再検討していただきたい。

②「集客力を高める食・農・自然観光の連携」について、観光推進課から事業の概要等に関する説明があり、下記のとおり質疑応答が行われた。

質疑委員	質疑と応答
三國委員	○ご当地グルメの祭典、どのエリアからの誘客を見込んでいたか。 ◆直近の H25 の B-1 でいうと、9 割は青森県内、残りは大半が近県という状況です。なので、H24 の事例ですと、おそらく、9 割は市内、あとは県内かなと思っています。 ○こういうイベントは、どのあたりをターゲットにしているのか。 ◆主に北東北を中心に狙っています。 ○地元のお客さんが来ないようでは、他から呼ぶのは難しいと思う。 ○十和田湖観光の状況は、最近どうなのか。なんとか PR してもらいたい、と考えている。
升澤委員	○十和田湖は、日本一だと考えているが、意外と全国からは来ていないようである。地元の財産を全国に知らしめるには、やはり PR が必要。 ○先般、千葉県柏市の高島屋で十和田奥入瀬特集をやった、JA も参加した。「十和田湖知っていますか」という問いかけをしてみたら、関東のお客さんの認知度は、半分程度であった。 ○官庁街通りも、奥入瀬渓流も、大きな財産である。美術館もある。これらと十和田湖観光を結びつける力がまだ弱いのではないか。より PR してくれることを要望する。
小林副部会長	○十和田湖地区の観光客からアンケートをとったことはあるか。 ◆とっています。内容は、ネガティブなものが多いです。空き店舗の多さや、景観に与える影響のことなど。ポジティブなものとしては、奥入瀬渓流が良かったなどです。 ○友人の話では、十和田湖は、食べ物に難があるとのこと。冷凍やレトルトかと疑うようなものが出てきたり、ヒメマスを頼んでヒメマスでないものが出てきたことがあったとも聞く。 ○ちょっとした心遣いがリピーターにつながるかどうかのポイント。食事そのものや接客などについては、「もう一回来てもらうんだ」の思いでやってほしいと思う。 ◆食の分野では、まだ満足いただけるだけの改善が起きていない状態

	です。観光業界の中でもいろいろあって、なかなか一本化できていません。しかし、少しずつでも変わっていこうと思っています。
三國委員	○各協会たちが弱いという一面も評価シートにあったが、まずは地元客がまた来たくなるように、お客さんの声一つ一つに耳を傾けてほしい。
小林委員	○夜にとれたヒメマスは売り物にならない、せっかくとっても、あげるしかない、といった話を聞いたこともあるが。 ◆その課題に対しては、冷凍貯蔵施設の整備が有効であろうと考えております。
髙井部会長	○各種イベントを呼び水として、この地に観光客に来てもらうことが大切。また、今回行った費用対効果の評価に加えて、今後は、インカム（観光事業者の収益効果）を測定してほしいと感じる。 ○また、長期滞在型の観光資源という観点から、「夏場の避暑地」としての要素は有力であろうと。どこかの企業に、夏場の数週間を滞在してもらうという取り組み方もある。 ○これまでの発想に加え、さらなる研究を行っていくのが良いのではないか。次のステップとして新たに何を打ち出していくか、を考えていただくことを要望したい。

⑵部会による対象事業の選定について

委員による協議の結果、農林畜産課の「担い手の育成・確保」と商工労政課の「新規高卒者の早期求人要請」に決定した。

その他　①本日質疑応答が行われた市側提案２事業について、10 月 30 日（水）までに事前評価表への記入と事務局への提出を依頼した。

②本日部会において選出した２事業について、説明資料の作成を担当課に依頼し、来週中に委員の皆様にお届けすることとした。

③次回の会議は 11 月６日（水）午後１時から議会会議室で行い、市側提案２事業についての最終評価と、部会選出２事業について事業概要及び内部評価内容の説明を行うこととした。